

全国果樹産地の担い手・労働力に関するシンポジウム

事例発表

J A 上伊那 営農経済部
園芸課 柴 誠裕

内容

- J A上伊那の概要について
- 管内の果樹生産状況について
- J A上伊那インターン制度について
- 労働力確保について

内容

- J A上伊那の概要について
- 管内の果樹生産状況について
- J A上伊那インターン制度について
- 労働力確保について

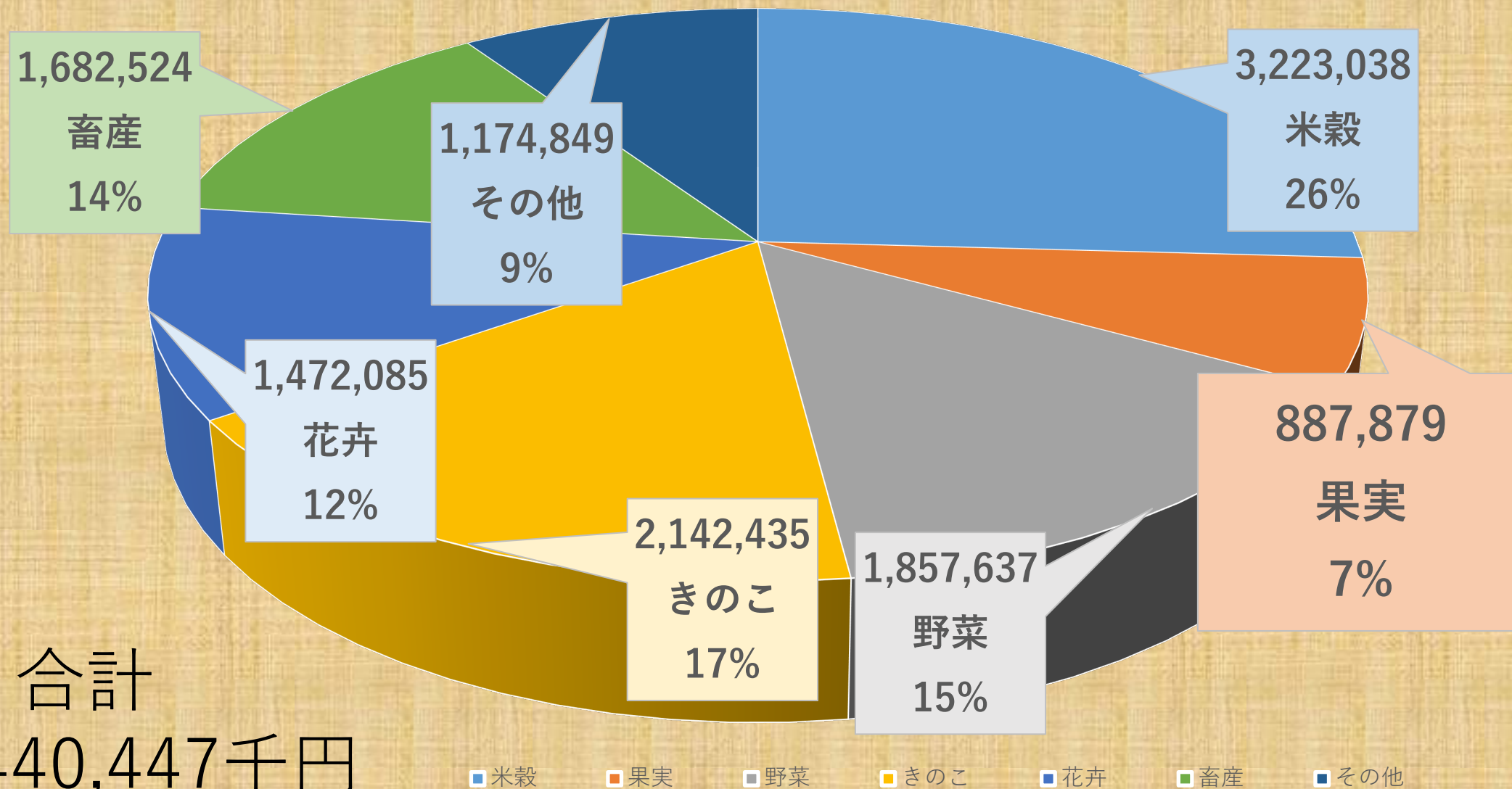


- 標高(可住地):
480m~1,200m
- 面積:
1,348.28平方キロメートル
- 耕地面積:
129.56平方キロメートル
- 構成市町村:
伊那市・駒ヶ根市・辰野町
箕輪町・飯島町・南箕輪村
宮田村・中川村
- 人口:約183,600人
- 世帯数:約73,400世帯



- 交通:中央自動車道利用
東京まで約3時間30分
名古屋まで約2時間

生産概況（R 3販売取扱高 金額：千円）



J A 合計
12,440,447千円

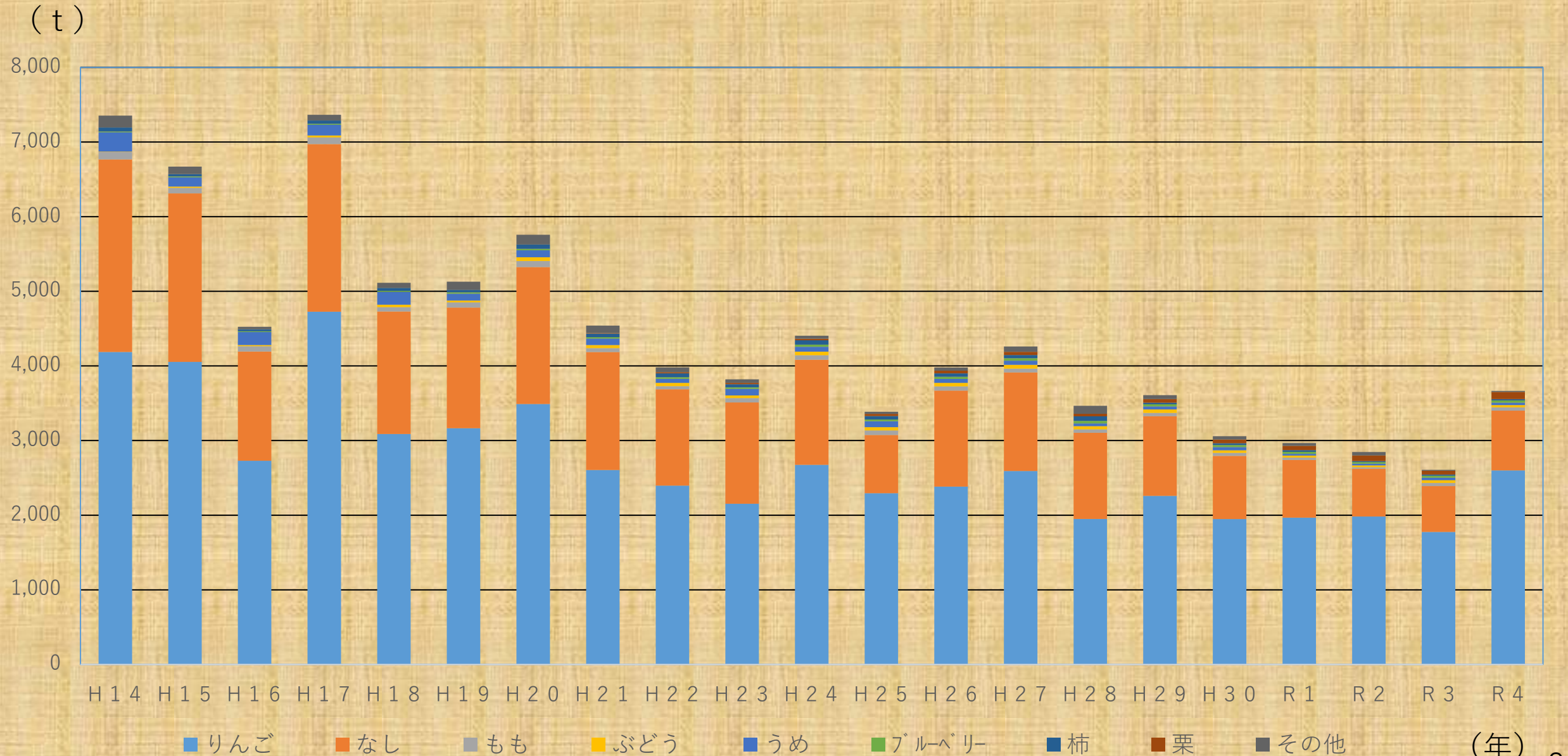
内容

- J A上伊那の概要について
- 管内の果樹生産状況について
- J A上伊那インターン制度について
- 労働力確保について

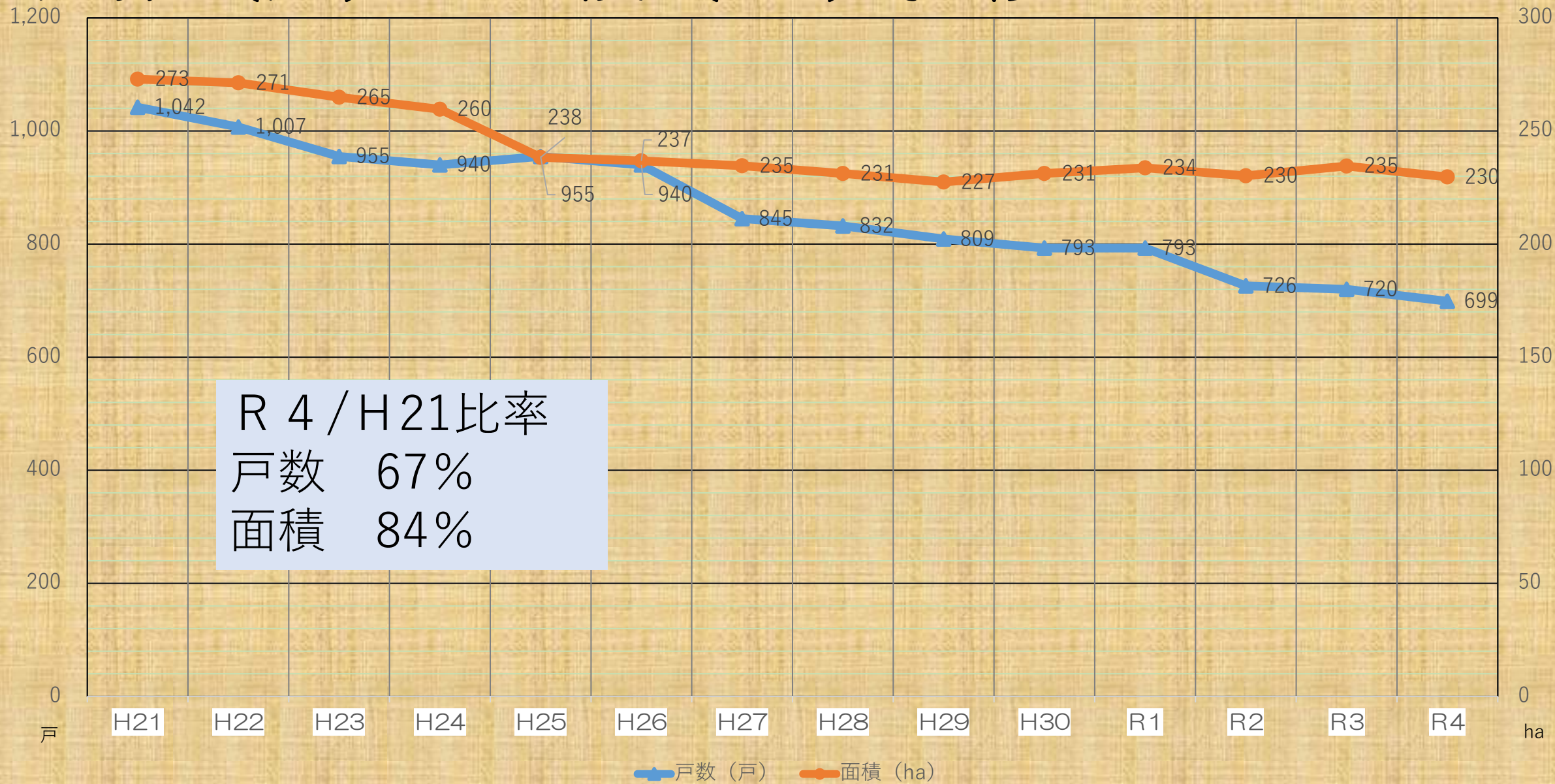
果樹生産概況（R4面積、生産量）

品 目	面積（h a）	生産量（t）
りんご	198	2,600
な し	32	800
も も	7	45
ぶどう	20	31
う め	9	32
ブルーベリー	12	30
柿（干し柿）	14	17
栗	23	95
その他	2	15
合 計	317	3,665

生産数量推移（H14～R4）



戸数（戸）・面積（ha）推移 ※りんご、梨、桃



内容

- J A上伊那の概要について
- 管内の果樹生産状況について
- J A上伊那インターン制度について
- 労働力確保について

JA上伊那インターン制度の概要

- 平成8年からインターン研修を開始
- 令和4年度までに、101名の研修生を受入れ
- 果樹の研修生は、31名（他品目と複合の場合もあり）
- 研修期間は、原則1年とし最長3年まで
- 研修生には、研修手当として 210万円/年 支払われる
（原資は、JAと研修先行政で半分ずつ）
- 研修後は、研修先市町村で就農し10年以上農業を継続すること
- 申込は前年10月末まで、審査・面接を行い翌年4月より研修開始
- 研修を延長する場合は、再度申込を行う

インターン生の推移（人）

	H8	H9	H 10	H 11	H 12	H 13	H 14	H 15	H 16	H 17	H 18	H 19	H 20	H 21
研修人数	3	2	3	4	5	6	4	2	2	2	3	5	5	3
内果樹	0	0	1	0	3	0	2	1	1	1	0	1	1	0
	H 22	H 23	H 24	H 25	H 26	H 27	H 28	H 29	H 30	R1	R2	R3	R4	計
研修人数	6	6	3	5	5	3	4	1	2	3	5	6	3	101
内果樹	1	3	1	1	4	1	1	1	1	1	2	1	2	31

果樹就農状況（H27～R4）

（人）

	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	計
里親研修※	1	3	1	2	1	0	1	1	10
J Aｲﾝﾀｰﾅｼｮﾅﾙ	2	5	1	0	1	1	2	2	14
計	3	8	2	2	2	1	3	3	24

※里親研修は、長野県の里親支援制度を利用して就農した生産者数

インターン研修の流れ

- 就農相談
- インターン研修申込（10月）
- 審査（11月）
- 研修（4月～3月）→延長の場合は、再度10月に申込
- 就農（4月）

研修の内容

- 栽培技術の習得
- 年間を通じた農作業スケジュール、生活リズムの体験
- 就農に向けた、圃場準備

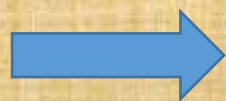
就農後は、農業次世代人材投資資金を活用しながら経営開始
→資金は、規模拡大や作業効率化等への投資資金

と、いうことは・・・

最低でも生活費を稼げるだけの、生産基盤が就農時に必要！

インターン研修の流れ

- 就農相談
- インターン研修申込（10月）
- 審査
- 研修（4月～3月）
- 就農（4月）



申込時には、研修先（就農後の生産基盤を見据えて）まで決定

研修先の選定について…

- 栽培技術がある
- 面倒見がよい
 - 開園に向けて応援してくれる
- 後継者がおらず、園地の貸出が可能
 - 生産意向調査の実施
- 規模拡大が可能な園地
 - 将来的には団地化

就農希望での困った事例

- 次世代人材投資資金の準備型を利用して、大学校などで技術研修を行った。研修終了半年前に、就農したいとの相談があったが、生産可能園地や苗木不足により新植も出来ず。
→果樹は、研修と就農準備を合わせて行う必要あり。
- 市町村で行っている、移住推進や地域おこし協力隊等、移住が前提となった場合、園地のマッチングが出来ない
→果樹の特性上（永年性）、将来に渡り果樹園地でありたい。また、ドリフトなども考慮すれば、団地化を進めていきたい。
※上伊那には、宮田方式と呼ばれる優良事例もある。

担い手の就農に向けての課題

○農地の確保

- 就農後、即生産可能
- 拡大可能
- 生産設備

課題

- 研修期間中の圃場整備
→研修生は、農地が持てない
新改植事業が利用できない



生産者からは…

- J Aが園地を整備して貸し出す
→現実的には難しい…

新制度へ期待！

研修制度も大事だけど…

取り巻く環境も重要！

- 支援体制（行政、JA、生産者）
- 補助金（国、県、JA）

産地背景①

- りんご高密植栽培の登場

反 収 3 t / 10 a → 6 t / 10 a

単価200円の場合 60万円 → 120万円

りんご栽培で、生計を立てられるようになった。

- りんごを高く売ればよい？結果、りんごの消費意欲の減退
- 若い生産者は、りんごの栽培に力を入れたい。販売はJAでという生産者も。
- 荷造りに掛かる時間は、自分の時間

産地背景②

- ・新植に対する補助金の拡充

平成28年～30年 J A 独自支援（新植時の棚、苗木代75%）
りんご新植面積 9.4ha

令和2年～ 果樹経営支援対策でも、新植が補助対象

R2 新植面積	5.3ha
R3 //	4.2ha
R4（予定）	5.2ha（先導的取組支援）

産地背景②

- その他の補助金

- 果樹経営支援対策事業

- 改植、灌水設備、園地整備、防霜ファン（特認）

- J A 独自支援

- 高密植栽培への棚改良、防蛾灯、多目的ネット、農機具等

- ※規模拡大の要件あり

- ※年度により、事業内容も変更

産地背景③-1

○中心となる生産者の存在

- ・産地をけん引するリーダー的存在

平成17年に就農。就農前は、飲食関係の会社員で長野県内のりんご農家で里親研修し、上伊那で就農。就農のきっかけは、まとまった生産可能な園地があったこと。その後本人も里親として、3名の研修生を受け入れ就農させている。

JAの生産部会の役員も勤め、「上伊那」という産地が10年後も産地でいられるように、若い生産者を中心に「上伊那の未来を創る会」を立ち上げ、生産者が課題と感じていることを出し合い、プロジェクトとしメンバーを中心に課題解決を進めている。

- ・プロジェクト

園地再生・M9台木生産、販売提案・消費宣伝、加工品製作、農機具・資材、新規就農・PR、労力確保

産地背景③-2

○中心となる生産者の存在

- ・生産拡大、先進的技術の導入に積極的な生産者の存在

りんご高密植栽培を積極的に進め6haまで拡大。若い農家が触発され、1.5ha～3haの栽培規模を目指すように。

(1ha以上生産農家数 H30-52戸 → R4-83戸)

○生産者同士のつながり

未来会を中心に、若い生産者のネットワークが広がる中で、産地を維持する為、新規就農者を積極的に受入れ出来るよう、会員の里親登録を増やしている。また、里親も孤独にならないよう情報交換会の実施や研修生の短期引き受け等も行い、協力関係を築いている。

産地背景④

- 研修先の生産者
技術指導、生活作業リズム、地域住民との橋渡し役
- 行政
農地の調整や集約、住居の確保など

それぞれの立場での協力があつてこそ、安心して就農できる

課題、今後の取り組みについて

- 就農先に選ばれる産地となる為に
 - 上伊那のPR
 - 就農希望者が、大きなリスクなく就農できる仕組みづくり
 - 生産者は生産に力を入れ、販売は安心してJAに出荷できる販売力
- 販売力＝産地ブランド
産地ブランドは、シャレの効いた商品名ではなく、注文に答えられる生産量。→ 生産量の増、新規就農者の確保が必要。
- 生産コストが上がる中で、販売価格に転嫁できないのが現状。
 - 関係者が、一体となって仕組みを変えていくことが必要！

内容

- J A上伊那の概要について
- 管内の果樹生産状況について
- J A上伊那インターン制度について
- 労働力確保について

労働力の確保状況

- 家族労働
- ご近所の知り合い
- シルバー人材（時期的）



課題

- 毎年来てくれる人も、高齢化
- シルバー人材も、労務者の更新が出来ずに、作業内容も限定的
- 県外から就農した人は、知り合いも少ない

➡ J A上伊那では、R 4より **daywork** を導入

dayworkの運用状況

- 全国34都道府県で導入
- 令和4年より運用開始
- 登録生産者数 40経営体
- // 求職者数 378人

※令和5年1月時点

※全品目含む

JA上伊那管内の農家の皆様へ

アプリで働き手を探しませんか？

お気軽に各JA営農センター、
営農指導員にご相談ください！

上伊那郡内の農家を対象に
8月1日(日) 運用スタート！



1日バイトアプリ デイワーク
daywork

利用方法

ダウンロード方法

App StoreまたはGoogle Playにアクセスしdayworkで検索するか、カメラでQRコードを読み取り、表示されたアプリをダウンロードしてください。

iPhone/iPad



Android



ログイン方法

アプリを起動したら画面下にあるマイページのボタンを押します。
開いたページを下にスクロールすると生産者専用ログインフォームがあります。
運営会社から選まれたアカウント情報を入力し、ログインを押すとログインできます。

ログインフォーム

ログインボタン



働き手探しのコツ：仕事の内容は細かく具体的に、分かりやすく掲載を。

※細かい使い方はアプリをご覧ください。

dayworkは営農の労働力不足問題を本格的に解決し、生産者の営農活動の
課題、疑問にたいして的確に回答できるようなサービスの提供に全力
で取り組んでいます。本サービスについてお問い合わせの際は、サービ
ス課までお問い合わせください。 ☎0487-84-9435

お問い合わせは

JA上伊那営農経済部営農企画課まで
TEL:0265-72-8833 FAX:0265-72-6107

JA上伊那 × daywork

dayworkの運用状況（令和4年）

マッチングの集計結果

集計項目	集計結果	備考
募集人数	1,153人	生産者が仕事に対して募集を行った延べ人数（件数）
応募人数	1,199人	仕事に対して応募のあった延べ人数（件数） 以下の応募状態に分類される [応募, 成立, 辞退, 中止, 遠慮, ドタキャン]
成立人数	940人	以下の応募状態を合計した延べ人数（件数） [成立, 中止]
マッチング率	81%	マッチング率 = 成立人数 ÷ 募集人数
応募倍率	103%	応募倍率 = 応募人数 ÷ 募集人数
リピーター率	64%	仕事をした後にもう一度申し込みをしている人の割合 リピーター率 = リピーター人数 ÷ 成立人数 ※リピーター人数：成立の仕事の後に、[応募, 成立, 辞退, 中止]になった人数 ※成立人数：一度でも仕事が成立した人数

応募人数の内訳

応募人数の内訳

応募状態	件数	備考
応募	72件	応募中や未成立の件数（キャンセル待ちを含む）
成立	823件	生産者が求職者の応募を採用し、仕事が成立した件数
辞退	78件	成立後に、求職者都合によるキャンセル件数
中止	117件	成立後に、天候などのやむを得ない理由によるキャンセル件数
遠慮	96件	様々な理由による生産者側からのキャンセル件数
ドタキャン	13件	開催日当日に、求職者が来なかった件数

就農7年目 栽培面積 2ha（りんご高密度植栽培）
写 シナノゴールド 18a 収量約18t

反収 10t
!

ご清聴ありがとうございました

